

子を戒む（邱濬）

男児 志を 立つるは 青年に 在り

万巻の 詩書 旃を 勉むるを 貴ぶ

少飲 貧る 莫かれ 儀狄の 酒

勇為 須らく 著くべし 祖生の 鞭

材を 成すには 務めて 師友に 親しむに 在り

行を保つては 祖先を 辱かしむるを 休めよ

但古今 賢達の 者を 看るに

声名 後人に 留与して 伝う

男児立志在青年 萬巻詩書貴勉旃
少飲莫貧儀狄酒 勇爲須著祖生鞭
成材務在親師友 保行休教辱祖先
但看古今賢達者 聲名留與後人傳

解説 自分の子供を戒めた詩。

語釈 ※萬巻詩書Ⅱ多数の書物。※旃Ⅱこれ。そばにあるものを指し示すことば。※儀狄酒Ⅱ儀狄は夏の時代で、初めて酒を作った人。※勇爲Ⅱ役に立つこと。才能があつて将来の見込みがあること。※祖生鞭Ⅱ人にさきがけて物事をする。こと。※成材Ⅱひとかどの人物になること。※賢達Ⅱ賢人と達人。達人は道理に広く通じた人。

通釈 男児、立身出世の計を立てるのは青年の時にある。それには万巻の詩書を読むことに勉勵することが最良である。酒は少量にとどめて貧り飲んではならぬ。また、正しいことを見ては勇氣をもつて人よりも先に行なうべきである。ひとかどの人物になるには師や友に親しむことが重要だ。いつも行ないを慎んで祖先を辱かしめてはならない。昔から賢人達人と尊敬される人を看ると、みんな名声を留めて、後世の人に伝えられているのである。お前が、このような賢達の士になるように大いに心掛けてもらいたいものである。